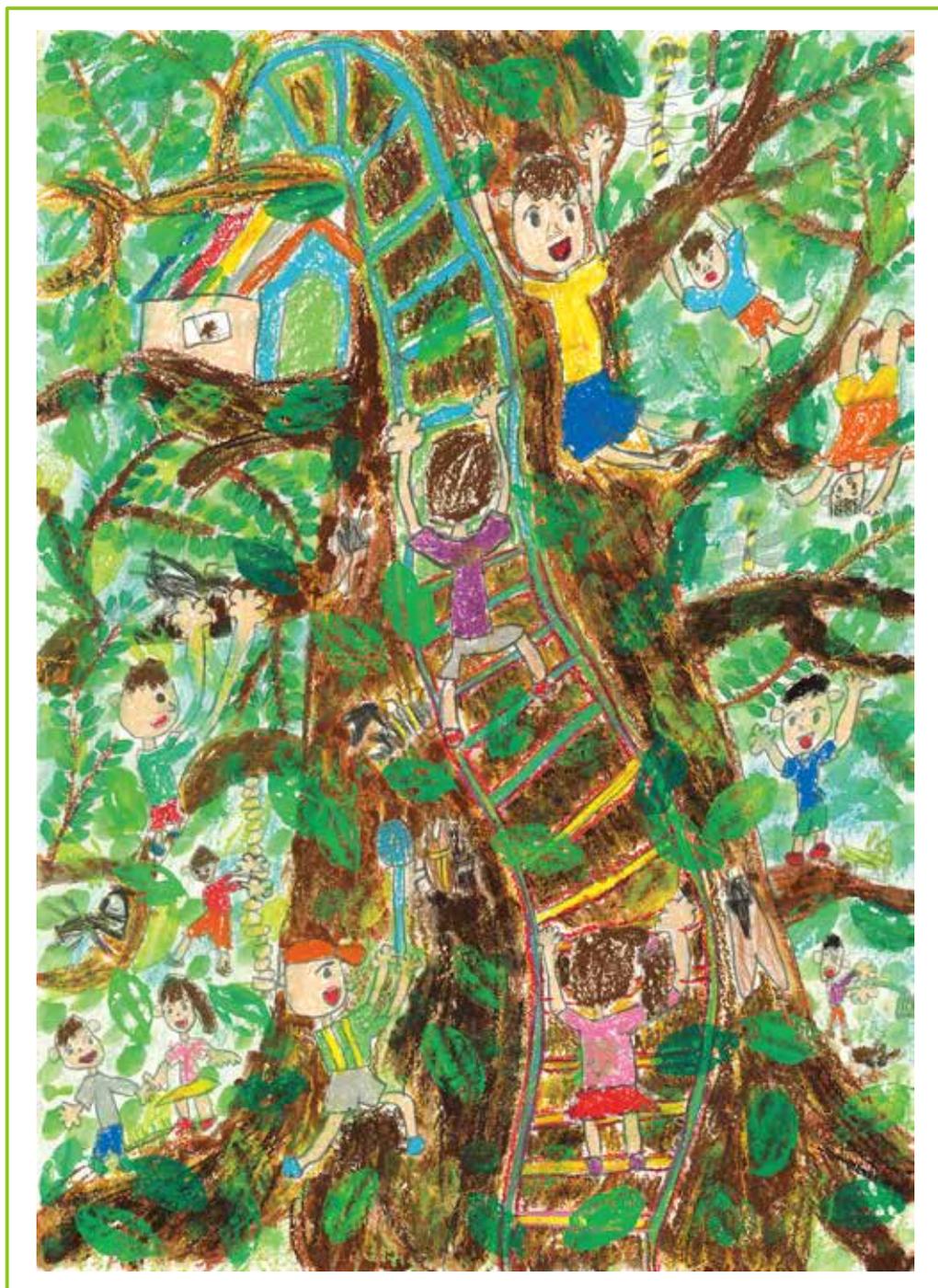




vol. 34

2017.3



公益社団法人 千葉県緑化推進委員会



学び

自然

と

緑

を

の

場

に

を

教育と緑化

学校林で学ぼう!

小学校、中学校、高等学校などにおいて、学校の基本財産形成や児童・生徒への環境に関する教育、体験活動を目的に、学校が保有もしくは使用協定などを行っている森林のことを学校林と言います。こうした学校林が見直されつつあり、貴重な教育の場として活用されている事例を紹介します。

学校林の今

学校林は公益社団法人国土緑化推進機構を中心に5年に一度、全国的に現況調査が行われており、28年度はその調査年でした。この調査で千葉県では43の学校が保有校に該当する回答を得ています。詳細な調査の集計・内容の分析には、これから1年程度かかる見込みです。ただ、回答の傾向では、現状として学校林の手入れが難しく荒廃していることや、学校林を活用した体験学習カリキュラムの情報が得られにくいことなどから、十分に活用されていない学校林が大きな割合を占めていると言えます。

一方で自然環境への関心の高まりや、アクティブラーニングの重要性が唱えられるなど、教育の現場としての学校林が再び注目を浴びてきています。

千葉県の学校林活用～佐倉東中学校～

こうした中、長い間手付かずだった学校林を手入れし、学校や地域の財産として活用していこうという取り組みが始まりました。

佐倉市立佐倉東中学校には、校地の3分の1を占める4haほどの学校林があります。高低差約13mほどにもなる小高い丘には豊かな緑が茂っていますが、これまでは特に大きな活動を行っていませんでした。

しかし2年ほど前、地域のあいさつ運動で学校と地区社会福祉協議会が話をしているうちに、教育はもちろんのこと地域コミュニティとして、学校林を憩いの場にしたいという意見が一致。具体的に取り組みを行うことが決まりました。

最初は竹の伐採などから開始、その量は実にトラック10台分にも及んだそうです。その後、階段や道の整備、ステージの設置など少しずつ手を加え、学校林として親しみのある森になるよう工夫されてきたとのこと。

「学校林に入れるようになって最初に行ったことは、野草の会の方を招いての野草調べでした。どのような樹木や草花があるか、調べてマップを作ったところ、およそ200種もあることが分かりました」とは、教頭の古林聖哉先生。どのような植物があるのか『佐倉の植物について』と題して皆で学んだと言います。

現在は道づくりなどの整備を進めながら、シイタケの原木栽培なども行っており、昨年度分は収穫し、給食にも使用したとのこと。シイタケ嫌いだった生徒が、自分たちで育てることで食べられるようになるなど、生徒たちの食育にもつながっているようです。近く、炭焼き学習も予定しているそうです。

地域にとっての学校林

こうした学校林活用のためには整備が不可欠。その活動は月に2回、土日を利用して、教職員、地区社協、民生委員、地域住民、PTA、部活動で登校した生徒たちなどによって行われており、多い時は50人ほどになるそうです。

「同じ地域に住んでいても、年配の大人とは関わりのない子どもも多く、最初は戸惑いもあったようです。でも、楽しんで作業をするうちに、気軽に話し掛けてくれるようになりました」とは、この活動の中心として参画されている佐倉東部地区社会福祉協議会会長の真部武美さんの言葉。

佐倉東中学校の学校林には、整備を進めて、いずれはバーベキューパーティーなどを開けるようにしたいという展望があります。生徒たちは未来予想図を描き、その日を心待ちにしています。

「卒業しても使える空間になり、いつか自分の子どもを連れてきてほしいと言ったら、生徒はきょんとしていました



佐倉東部地区社会福祉協議会 会長 真部武美さん



佐倉東中学校生徒作



佐倉市立佐倉東中学校 教頭 古林聖哉先生



たが、将来的にはそうした地域活性化に役立つ場になるといいと思います。長くゆっくりと続けていきたいですね」と、古林先生。

自然や緑について学ぶだけでなく、地域コミュニケーションにも役立っている学校林。自然の中で体を動かすと、知らない人や世代の違う人同士でも積極的に話すことができるようになり、心の育成にもつながっていくようです。

新たな活動の形

学校林を教育に活用するにはハードルが高い、と思われている傾向があります。学校林の整備や学習プログラムの構築など、課題はあります。しかし、社会が成熟している現代では、森林ボランティアや環境学習を得意とする活動団体などとの連携により、クリアできることも多いと考えられます。

今回紹介した佐倉東中学校は、国土緑化推進機構と都道府県緑化推進委員会による「学校林を活用した森林環境教育促進事業」という助成事業を受けて活動しています。この事業は、まさに学校林保有校と学校林を活用した教育講座をサポートする(実施する)団体をマッチングさせて、環境教育を推進しようとするものです。

近年、この事業の活用を希望する学校が増えてきていることから、千葉県緑化推進委員会でも学校林へ新たに目が向けられていることを実感しています。学校林には、学校保有でなく、使用協定を結んだものもあります。農業体験のため田んぼの使用協定を結んでいるのと同様です。今後、このケースが増えていくものと予想しています。

これからは、森林を活用していく時代。当委員会は、従来の概念にとらわれない斬新な発想で、新しい学校林の活用の形が作られることを願い、学校や団体のサポートを行っています。

緑と触れ合い、心を育む

学校林は限られた資源。
緑を通した学びの活動は様々あります。
毎日の生活の中にある、いろいろな緑化事業の取り組みと、
学びのカタチに注目！

学校にもっと緑を！～企業の協力～

緑化推進委員会では様々な企業協力を得て緑化事業を行っています。学校の緑化に協力したいという意向を持つ企業が多くなっています。一方学校では、新規の植樹はもちろん、既存樹の剪定などに悩んでいる例が想像以上に多いようです。児童生徒の取り組みだけでなく、学校としてこうした緑化事業を取り入れて、教育環境を向上させようとする事例が増えてきています。

- 1 三井生命保険による苗木の寄贈(松戸市立東松戸小)
- 2 全労済による震災地域の学校緑化(市原市立京葉小)
- 3 全労済による震災地域の学校緑化(白子町立白湯小)
- 4 ローソンによる学校緑化(旭市立飯岡小)



取り戻したい、失われた緑 ～震災復興事業～

東日本大震災により、千葉県では九十九里沿岸の津波被害が甚大でした。暮らしの安全を見守る海岸保安林も大きなダメージを受けたことから、地域や学校を挙げて自らの手で、海岸林の再生のため植樹活動に参加している事例もあります。



旭市立富浦小の活動

緑と触れ合い、考えよう ～みどりの少年団～

次代を担う子どもたちが、自然に親しみ、みどりを育む活動を通じて、責任と協力の心を培い、明るい社会人に育つことを願って結成されているのが、みどりの少年団。千葉県内には現在24市町村に63のみどりの少年団が結成されており、自主性をモットーに各団の計画に沿った緑化活動が行われています。

また、それぞれの活動だけではなく、県内のみどりの少年団が一堂に会して行う、キャンプ形式の各種体験プログラムなども開催し、様々な交流が行われています。

活動助成の体制も整っているため、学校などで継続的な緑化活動を行う場合には、みどりの少年団の結成をお勧めしています。



知れば知るほど面白い 子ども樹木博士になろう

日本樹木医会千葉県支部や千葉県森林インストラクター会などの共催で、緑の募金による自然に親しむ活動「子ども樹木博士」のイベントを開催しています。

森と緑に親しみながら木の名前や特徴などを覚えるこの企画に参加して、より積極的に緑に興味を持ってもらうのが狙いです。

ここ数年は、千葉市稲毛海浜公園を会場に行っています。樹木医や森林インストラクターと一緒に約20種の樹木を

観察し、その後に室内で木の枝や葉などの標本を見て、名前を答えるテストにチャレンジ。正解数に応じて、10級から2段までの子ども樹木博士の段位が認定されます。

日ごろ何げなく見過ごしてしまいがちな樹木をじっくりと親子で観察することで、自然について考えたり話し合ったりするきっかけにもなる、子ども樹木博士。多くの方に参加していただくために、今後も実施していきたいと考えています。



- 1 グループごとに観察を実施。2016年のイベントでは、常緑広葉樹8種、落葉広葉樹9種などの特徴を、説明を受けながら学びました
- 2 試験の前に、試験木を見て、親子で特徴を最終確認
- 3 緊張の試験。すべて分からなくても、正解数に応じて段位が与えられます

誌上樹木博士検定にチャレンジ

あなたはいくつ分かるかな？

- ①冬も葉は落ちず、いつも緑。葉が竹の葉のように細長く、花が桃の花に似ているのでこの名前が付いた。
- ②一年中緑の葉。葉は幹から出ている全体が1枚で、鳥の羽に似ているので羽状複葉という。潮風に強いが育ちは遅い。
- ③冬には葉が落ちる。葉は卵の形をした楕円形。7月から9月にかけてピンクや白色の花が咲く。木の肌がスベスベしていることから名前が付いた。
- ④冬には葉が落ちる。木や電柱に絡みつく、つる植物。4月から5月に紫色などの花の集まりがぶら下がった形で咲く。
- ⑤一年中緑の葉。潮風や乾燥に強く、他の木が育たない砂浜でも育つ。葉は針のような形で2本ずつ対になっている。

※稲毛海浜公園での過去の事例です。

マメ知識

樹木医ってどんな人？

日本緑化センターによる認定資格。専門的な知識を持ち、樹木の診断や治療を行う木のお医者さん。貴重木の保護を行ったり、街路樹などが不健康な状態にないか診断を行ったりするなど、保護や育成のためのスペシャリストです。

答えは、最終ページ ➡

今回の学校は

ふるさとの美しい松林を再び
—千葉県立安房拓心高等学校—

地域に根差した学校づくり

大正11年創立の安房拓心高校（近藤克之校長）は、農業高校を前身とする伝統校です。平成17年、文理・園芸・畜産・土木・調理の5コースを有する総合高校として、新たにスタートしました。南房総市唯一の高校として、総合学科の特色を生かしながら地域に根差した活動を展開しています。

「花いっぱい運動」もその一つです。市内の小中学校14校の教職員を対象に、園芸部の生徒たちが中心となり花の種まきや鉢上げの指導を行っています。500鉢ずつ持ち帰られた苗は、各学校で大切に育てられます。近隣の道の駅の花壇作りも積極的にを行うなど、生徒たちが育てた花々は、様々な場所で人々を楽しませています。

警察署と行う「交通安全キャンペーン」では、栽培したストックの花束や大根を、ドライバー一人ひとりに配ります。

「ニコニコして受け取ってくれます。苗木やシクラメンの販売など、地元の人たちが楽しみに待っていてくれる行事がたくさんあります」と、教頭の石井一司先生は笑顔で話します。

美しい松林を取り戻すために

学校の目前には、房総フラワーラインが広がって



います。かつては青々とした松林（保安林）がありましたが、6~7年前に松くい虫被害が激化し、枯れてしまいました。地域の松林の再生は喫緊の課題であることから県南部林業事務所の呼び掛けに応じ、同校は2年前から植樹活動に参画しています。

平成29年3月には、約0.3haの場所に松くい虫に抵抗性のあるクロマツ1,000本を植えます。昨年の植樹には、1年生と2年生の約350人が参加。倒れないように、植えた場所を足で丁寧に踏み固めました。一人で20本以上植えた生徒もいたとか。

野球部の2年生は、「外で練習しているので、海岸林がないと風当たりがとても強く感じます。早く成長して、防風林として役立ってほしい」、「ちょっと疲れたけど楽しかった。10年後、20年後、自分が植えたんだと、自慢したい」と、口々に語ります。

故郷の町を花いっばいに、そして海岸に大切な松林を取り戻したいと活動する生徒たち。安房拓心高校が地元根付き、愛される理由はここにあります。



親子の遊びのびびるごす、温もりの空間

小さな妖精 ニッセの住む場所
ニッセとは、北欧デンマークに住む、小さな妖精のこと。子育て支援ステーションニッセは、小さな子を持つお母さんたちが、育児で孤立することなく気軽に立ち寄り、病児保育を行ってき

企業と
みどり
～緑を愛する元気な企業～

子育て支援ステーション
ニッセ

たクリニックの理事でもある、代表の村令子さんは、「この建物に初めて足を踏み入れた瞬間、木の香りに包まれました。その時『木育』をやるうと即決しました」と、振り返ります。

木育とは、日常に木を取り入れることで心地よさを五感で感じ、人と森との関係を理解しながら豊かな心を育んでいくこと。ニッセは、あちこちに木が使われ、楽しい仕掛け満載の、小さな妖精たちのすみかのような場所。

床は全てヒノキ、柱にはスギ材が使われています。2枚のパーテーションには、ナラやサクラなど、7種類ずつ異なる木材がはめ込まれ、材質や色の違いがひと目で分かるように工夫されています。

1階壁面にあるのが、デンマークの街並みをイメージしたオリジナル木製トイ。赤ちゃんの視線や、つかまり立ちしやすい高さなどが計算されています。優しい色使いやユニークな仕掛けは、子どもたちに大人気。ヒノキを卵型に加工した「ひのきのたまボール」では、柔らかな肌触りや香りを直接楽しむことができます。

DATA
子育て支援
ステーション
ニッセ

子どもと親のための遊び場。0歳から利用できる。主な遊具は、東京おもちゃ美術館監修のオリジナル。スタッフ全員がおもちゃインストラクターの資格を持つ。

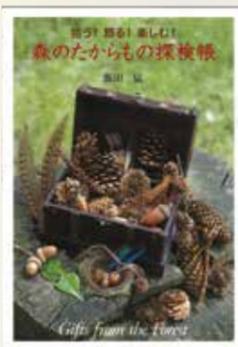
ニッセでは、間伐材を利用した箱椅子や、離乳食用スプーンを作る木工教室を定期的に開催しています。地元産木材を知ってほしいと、千葉県産サンクスギで作ったペンダントはお母さんたちに大人気。「おもちゃのルーツに会いに行こうと、里山に出掛ける活動も始めました」と、中村さんは続けました。参加者たちがチェーンソーで木を伐採。その後、植樹をします。「ニッセの森」を作るプロジェクトを進めています。森づくりに必要な力は、生き抜く力と重なります。子どもたちと共に成長できる森を作り上げていきたいですね」と、中村さんは語ってくれました。

森づくりに必要な力は
生き抜く力と重なる



オリジナル木製トイ(上)と木育イベントに参加した子どもたち(下)

オススメします。
この本 a bookshelf



「拾う！飾る！楽しむ！
森のたからもの探検帳」
著者/飯田 猛
世界文化社 1,500円+税

「リスのエビフライ」って何？「シーダローズ」は？今まで気付かなかった、知らなかった森のたからものを教えてくれる。動物との関わりを通して見る植物の姿には、発見がいっぱい。美しい写真とイラストを見るだけでワクワクしてきて、親子で一緒にたからものと森の新しい魅力を探しに、探検に行きたくなる。



「^{かむさり}神去なあな日常」
著者/三浦しをん
徳間文庫 619円+税

高校卒業と同時に、いきなり横浜から三重の山村に行かれた主人公・勇気は、何も知らないまま、林業の世界に放り込まれた。環境のギャップに抵抗を覚えながらも、次第に溶け込んでいく展開は、テンポも良く、ユーモラス。村の暮らしに見る、百年スパンの日本人精神の原点は、一種エキゾチックで懐かしさもある。

森の
名手・名人

(公社) 国土緑化推進機構を中心に、全国の緑化推進委員会が展開している「もりのくに・につぼん」運動。森林を守り育て、その恵みを生かして、持続的に循環させようというものです。そこで、森林に関わる人とそこから生まれた文化に注目し、全国から「森の名手・名人100人」を選定。28年度、千葉県では2名が名手・名人に選ばれました。

★ 藪崎 雅巳さん(松戸市・56歳)
(加工部門)

優れた技能の建具職人として、ものづくりマイスターに登録されています。また、職業訓練校で後継者を育成し、小学生対象の木工教室開催、ものづくりフェアへの参加、国内外からの工場視察の受け入れなども行っています。



★ 粕谷 雄治さん(鴨川市・65歳)
(加工部門)

遠洋漁業に出る大型木造船の製造・修理に使う「船鋸」には、堅い木材を切る耐久性と切れ味が求められたため、特有の製造技法が発達しました。現在も伝統の製法を守り、その技術を応用してさまざまな専用鋸を製作しています。



今回ご紹介した2冊のいずれかを各1名様にプレゼントします。ハガキに、ご希望の書名、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、(公社) 千葉県緑化推進委員会「プレゼント」係にご応募ください。また、本誌をご覧になった場所、ご意見、ご要望もお書き添えください。あて先は8ページ下、締め切りは7月末日(当日消印有効)です。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

春季・緑の募金にご協力ください

平成29年度 緑の募金運動
目標額 3,300万円



3月1日から5月31日まで県内全域で「春季・緑の募金」運動を行っています。募金運動の方法は各市町村で異なりますが、募金は当委員会、各市町村窓口、募金箱設置にご協力の企業・団体の事業所等でも受け付けています。その他、企業・職場単位の募金など、ご関心の際には当委員会までご連絡ください。

平成28年度の募金総額は32,103,196円に達しました。お寄せいただいた募金は、学校や公園といった公共施設の緑化や緑の少年団に代表される森林環境学習、森林ボランティア活動の支援などに大きく役立てられました。

また中央事業として引き続き東日本大震災被災地域の復興事業（うらやすの森・植樹祭ほか）を行いました。



平成28年度 公共施設等の環境緑化事業を実施しました

（公社）ゴルフ緑化促進会並びに県内協力ゴルフ場のご協力のもと、プレイヤーによる緑化協力金を原資に、市町村から希望が寄せられた下記の公共施設などに植樹を行いました。



市町村	場所	樹種・本数
市川市	市川市道0234号	ヒラドツツジ371本

第二期・県民参加によるみどりの再生事業参加者募集

津波被害等が甚大な海岸林をはじめとする森林の再生活動（森林ボランティア）に参加しませんか？ ご関心の際は当委員会ホームページご参照、または事務局までお問い合わせください。



国土緑化運動ポスター原画コンクール展示会のお知らせ

平成28年度国土緑化運動ポスター原画コンクール入賞作品展示会を下記のとおり実施します。9,999点の応募の中から選ばれた素晴らしい作品の数々です。次代を担う子どもたちの緑や自然に対する思いやメッセージをぜひご覧ください。

当コンクールは平成29年度も実施します。たくさんのご応募をお待ちしております。

期間	場所	展示作品
4/10(月)～ 4/21(金)	千葉市中央区市場町1-1 「千葉県庁1階 本庁舎中庁舎連絡通路」 ※開庁日は除く	特別賞、特選の計36点
4/25(火)～ 5/1(月)	千葉市中央区新町1000 「そごう千葉店 地階ギャラリー」 ※最終日は16:00まで	特別賞、特選、入選、協賛賞の計75点
5/12(金)～ 5/26(金)	千葉市稲毛区園生町406-66 「千葉信用金庫 園生草野支店」 ※休業日は除く	特別賞、協賛賞の計15点
6/27(火)～ 7/9(日)	柏市柏の葉4-1 「県立柏の葉公園 公園センター内」	特別賞、特選、入選、協賛賞の計75点
7/25(火)～ 8/27(日)	千葉市中央区青葉町977-1 「県立青葉の森公園 公園センター内」	特別賞、特選、入選、協賛賞の計75点
9/1(金)～ 9/29(金)	千葉市稲毛区天台6-5-2 「千葉県青少年女性会館」 ※休館日は除く	特別賞、特選、協賛賞の計39点

※会場等都合により展示期間等が変更になる場合もございますので、最新の情報は当委員会ホームページでご確認ください。

樹木博士検定の答え：

- ①キョウチクトウ ②ソテツ ③サルスベリ ④フジ ⑤クロマツ

表紙の絵

表紙の作品は平成28年度国土緑化運動ポスター原画コンクールにおいて、小学校・低学年の部、千葉県知事賞を受賞した、布留川拓己さん(小2)の作品です。



2017年3月発行
発行／（公社）千葉県緑化推進委員会
URL <http://www.c-green.or.jp/>
〒299-0265 袖ヶ浦市長浦拓2号580-148
TEL.0438-60-1521 FAX.0438-60-1522
印刷／凸版印刷（株） TEL.043-350-5611

※この広報誌は、古紙配合率100%の再生紙を使用しています。